

KAWASAKI STEEL GIHO

Vol.27 (1995) No.1

Environmental Engineering Business by Kawasaki Steel

(Yutaku Tashiro)

(Eiichi Iwasa)

(Masatoshi

Ichimiya)

:

Synopsis :

The environmental engineering business by Kawasaki Steel, whose technical base has been cultivated through the construction and operation of steelworks, have been offering many kinds of environmental equipment, such as wastewater treatment facilities, sludge treatment facilities, municipal incinerators, melting furnaces of municipal ash, composting plants for treating municipal or sewage sludge, and so on. The company's aims are to become the total planner of the environmental area, and to contributed to supplying more kinds of techniques concerning environment to the society and more kinds of services to the people living near the steelworks.

(c)JFE Steel Corporation, 2003





要旨

川崎製鉄の環境エンジニアリング事業は、製鉄所の建設、操業の長い歴史の中で培われた環境への取り組みをベースとして、水処理設備を手はじめに、汚泥処理設備、ごみの焼却および焼却灰溶融設備、固形燃料化設備や高速堆肥化設備などを提供している。当社のめざすところは、これらの技術を組み合わせてシステムとして提供できる総合プランナーである。今後は、さらに製鉄所で培った技術

(4) 排エネルギーの回収(コークス乾式消火設備、高炉炉頂圧縮機)の開発を完了させ、またOD(oxidation ditch)法には、K-JETシス

を実施している

も実施している

さらに、当社では環境問題全体を従来以上に積極的、多面的に捉えるため、1991年より全社「地球環境管理委員会」を発足させ、

3.1.3 閉鎖性水域(ダム、湖沼、湾等)水質改善技術
近年は、生活環境の快適さを求める傾向が強くなってきており、

3.3 ごみ焼却プラント分野

一般家庭から排出される都市ごみを焼却する分野である。近年、生活の向上にともなって、廃棄物の発生量が増大し、種類も多様化してきている。

当社は、製鉄所における焼却技術や排ガス処理技術、使用者としての炉材のノウハウをベースに、エンジニアリング事業をとおして

に廃棄物のほとんど全てを、単に燃やして埋める処理から、極力リサイクルを推進し、焼却処理の際には熱エネルギーを活用するものへの転換を推進する」とうたっている。

このごみ固形燃料化方式は、従来の焼却炉方式と比べると以下の特徴がある。

(1) ごみを燃やさず処理し、排煙が出ないため環境を汚染することがなく、住民に受け入れやすい。

(2) ごみ固形燃料化することで長期保存が可能に

施設建設に取り組んでいる。1994年度には並列揺動型階段式ストーカー炉を中心とするごみ焼却施設を熊本県天草中央衛生施設一部事務組合から受注した。その概要は本特集号「並列揺動型階段式スト

カールを中心とするごみ焼却施設」に詳しい。

ングを容易にする。

(3) ごみ処理とエネルギーの利用の局面を時間的、場所的に切り離すことができる。

(4) 小規模な処理でもリサイクルが可能である

さらに今後は、単にごみを燃やすだけでなく、サーマルリサイク

(5) 小規模分散処理も可能であり、大型焼却炉による集中処理に

4 今後の事業展開の方向性

- ・有機質廃棄物のコンポスト化技術
- ・下水汚泥直接溶融技術

(1) 製鉄所の有する技術の活用

(4) 自然環境の再生

出基準等の各種規制もますます強化されていくと考えられるた

に代表される大型湖沼には、河川や下水処理場を通じて膨大な